

がん検診を受診されるみなさまへ

国が推奨しているがん検診は、科学的に有効性が認められたものです。
正しく理解し、受診しましょう。

がん検診のメリットとデメリット

メリット

- 最大の利益は、早期のがんを見つけ、早めに治療を行うことで、がんによる死亡率を低下させることです。
- がん以外の病気も見つけることができ、治療に結びつけられます。
- がん検診の結果、「異常なし」と判定されれば安心して生活することができます。
- その他の利益としては、対象となるがんの罹患率の減少、早期発見による生活の質（QOL）の改善、治療する範囲の軽減、医療費が安くすむことなどがあげられます。

デメリット

- がん検診でがんが100%見つかるわけではありません。（偽陰性）
- がんがなくても検診の結果「陽性」となる場合もあります。（偽陽性）
- 結果的に不必要な治療（過剰診断）や検査を招く可能性があります。
- 検査に伴う偶発症（事故、副作用等）の問題があります。
- 受診者の精密検査が必要なことにより、不安を感じるなど心理的影響があります。

日本のがん統計

がんの死亡数が多い部位

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	乳房	胃
男女計	肺	大腸	膵臓	胃	肝臓

令和6年（2024年）人口動態統計

がんの罹患数が多い部位

	1位	2位	3位	4位	5位
前立腺	大腸	肺	胃	肝臓	
乳房	大腸	肺	胃	子宮	
大腸	肺	胃	乳房	前立腺	

全国がん罹患データ（2021年）

下記のがん検診は、死亡率減少効果があることが認められています。

定期的な検診を心がけ、確実に受診しましょう

胃がん検診	毎年受診 2年に一回	胃部エックス線検査*1 胃部内視鏡検査	胃がんはがん死亡の上位に位置しており、定期的な検診が重要です。
大腸がん検診	毎年受診	便潜血検査（2日法）	大腸がんは日本人に増えており、がん死亡の上位に位置していますので、定期的な検診が重要です。
肺がん検診	毎年受診	胸部エックス線検査	肺がんはがん死亡の上位に位置しています。喫煙との関連が強く、肺がんになった人のうち、男性68%、女性18%は喫煙が原因で肺がんになったと考えられています。禁煙とたばこの煙を避けることが有効です。
乳がん検診	2年に一回	乳房エックス線検査 （マンモグラフィ）	乳がんは近年、女性におけるがん死亡の上位となっており、日ごろから自分の乳房の状態に関心を持って生活するプレスト・アウェアネスが重要です。定期的な検診も心がけましょう。
子宮頸がん検診	2年に一回	子宮頸部の細胞診	子宮頸がんの罹患は比較的多く、近年増えています。検査結果は「異常なし(精密検査不要)」、「要精密検査」等の区分で報告されます。

*1 当分の間、年一回受診しても差し支えない

症状がある場合は必ず医療機関を受診し、医師に診てもらいましょう。

深浦町・公益財団法人 青森県総合健診センター

今回の検診の結果が「要精密検査」となった場合は、必ず医療機関で精密検査を受けましょう。

精密検査の方法

○ 胃の精密検査

胃内視鏡検査を行います。必要に応じて、細胞組織をとり、がんかどうかを調べる生検を行います。

胃内視鏡検査：胃の中を内視鏡で直接観察する検査です。麻酔や胃の動きを抑える注射をして、内視鏡を口や鼻から挿入します。

○ 大腸の精密検査

第一選択は全大腸内視鏡検査です。全大腸内視鏡検査が困難な場合は、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査の併用で行うことがあります。

※検診と同じ検査は、精密検査となりません。(便潜血検査の再検は不適切です)

全大腸内視鏡検査：大腸すべてを内視鏡で観察する方法です。事前に下剤を服用し、肛門から内視鏡を挿入し検査します。

注腸エックス線検査：事前に下剤を服用し、肛門からチューブを挿入してバリウムと空気を注入し、大腸のエックス線写真を撮影します。

○ 肺の精密検査

胸部CT検査や気管支鏡検査で行います。

※検診と同じ検査は、精密検査となりません。

胸部CT検査：CTスキャナーと呼ばれる検査装置の寝台に横になり、胸部のエックス線写真を撮影します。

気管支鏡検査：気管支鏡を口から気管支に挿入して、直接観察します。必要に応じて細胞を採る検査をすることがあります。

○ 乳房の精密検査

マンモグラフィの追加撮影、乳房超音波検査、MRI、CT、穿刺吸引細胞診や針生検等を行います。

マンモグラフィ：詳しく観察するため、多方向からエックス線撮影をします。

乳房超音波検査：超音波により詳しく観察します。

乳房MRI検査：寝台に横になり、強力な磁石でできた筒の中で、磁気の力を利用して撮影する検査です。

穿刺吸引細胞診、針生検：しこりなど疑わしい病変が見つかった場合、細い注射針を刺して中の細胞や組織を採取して調べます。

○ 子宮の精密検査

コルポスコープ下の組織診や細胞診、HPV検査などを組み合わせたものを実施します。

コルポスコープ：子宮頸部の粘膜表面を拡大し、細かい部分を観察できる医療器械です。観察と同時に粘膜の組織を採取して検査します。

組織診：疑わしい部分から組織を採り、標本をつくって顕微鏡で診断します。

精密検査結果は、市町村へ報告します。また、医療機関で受診した精密検査結果は検診機関と市町村で共有いたします。

※精密検査結果は、個人の同意がなくても、市町村や検診機関に対して提供できる個人情報保護法の例外事項として認められています。